

洋書輸入協会会報

VOL. 24

NO. 10

(通巻282号) 1990年10月

理事会報告

9月10日(月)

(一) 7月・8月分収支計算・予算対比表

9月7日(金)の総務委員会での審査にもとづく松井幸雄氏(丸善)の報告を承認した。

(二) 懇談会

9月17日(月)に開催する懇談会の討議内容につき、総務委員会で検討した資料の説明があり、この資料をもとに懇談会をすすめることにした。

(三) フランクフルト日本年

フランクフルト日本年実行委員会で作成した「事業項目の概要」につき説明があった。

(四) その他。

理事会に先立ち、イースタン ブック サービス、エルゼビア、パーガモンの3社代表者と海外の出版事情につき懇談した。

洋書輸入協会懇談会

1990年9月17日(月)午後1時30分より、学士会館(本郷)会議室において、洋書輸入協会懇談会が開催された。会員26社より31名が出席し、協会予算の編成、特に支出予算の在り方について意見を出し合い懇談した。支出予算のうち約三分の二は固定費で、裁量出来る額は残り約三分の一の事業費に限られてはいるものの、極力有効に使

うにはどうすべきか熱心に論議が交わされた。来年度の予算編成に当たっては、懇談会に出された意見を斟酌することとなって、午後4時すぎに閉会した。

海外ニュース

「英国の出版統計」

英国の年間総出版点数とその部門別明細は、例年なら翌年初に発表されていたが、今年はどういうわけか8月に入ってようやく発表された。これによると、1989年の英国の総出版点数は61,195点で、前年より4,681点、8%の増加であった。これは史上最高の記録である。

分野別に見ると、伸び率が大きいのは産業(31%増)、化学・物理(27%増)、法律・行政(26%増)、児童書(23%増)などである。最大の分野であるフィクションは7,221点で前年より725点、11%増加している。

逆に学校用教科書は2,007点から1,751点へと13%近くも減少した。他に減少したのは工学(12%減)、商業(11%減)、医学(5%減)の三分野のみであった。

(The Bookseller、8月3日号より)

—(株)紀伊國屋書店提供—

理事会報告	1	お知らせ	3	お知らせ	7
洋書輸入協会懇談会	1	東京の坂と橋と文明開化(7)	4	総代理店ご案内	7
海外ニュース	1	ドイツおよびヨーロッパにおける		広告	8
洋書輸入協会史(56)	2	書籍市場とメディア諸構造	5		

洋書輸入協会史 (56)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

59 昭和32年(1957)年度のその他の出来事(続き)

全文を掲載したい。

記

59.6 第一回東京国際書籍展

北村徳太郎氏を名誉会長に推戴する件

アメリカでABAの書籍展が毎年開催されていたが、当時これに日本から出展していたのは丸善と日本出版貿易の二社だけであった。この書籍展の一隅にInternational Section が付設されていて、これを演出していたのがA. P. Wales Organizationである。日本出版貿易の小沢専務(当時)が、このA. P. Walesと親しくなり、日本で国際書籍展をやりたいから協力してくれというWalesの申し入れを引き受けたのがこの話の始まりである。

提案：

今回北村徳太郎氏を協会の名誉会長に推したい

理由：

前国会における「著作権法一部改正法案」の審議、又は「輸入担保率の引き下げ」請願などの経緯から考えると、当協会の使命とする良書、良誌の輸入促進と、同業会員相互の協調共栄の実をあげる為には、現在及び将来に亘って、問題処理のために政府当局及び国会その他への働きかけを必要とし、その協力を得ることが極めて重要であると思います。

同業会は、昭和32(1957)年8月10日付の海輸第28号で、Walesから送ってきた7月2日付のPress Releaseの写しを、会員に配布している。次いで9月12日の理事会で日貿の村山氏が同展の説明を行い、10月には同業会の理事社が、日貿から同展の相談役を委嘱されている。

当面する問題処理の為には、理事長以下各理事及び全会員諸兄の努力にまつことは云うまでもない所でありますが、茲に政府当局又は国会と密接なつながりがあり、更には国会に議席のある直接の代表者を得ることができれば、問題処理と運営上極めて有利であり、この上ない便宜を得られることは自明のことです。

同展は、昭和33(1958)年1月に、A. P. Wales Org.と日貿の共同主催で、同業会後援の許に、Tokyo International Book Exhibitionとして、三越で三笠宮殿下のテープカットにより開催され、盛況であった。なおこの書籍展は第4回まで開催され、第2回以降は都立産業会館が会場となっている。

但し、これを協会の意志として、常に協会の力によって議員を送り出すこと、或いは外部より之を求めて委嘱することは、云うべくして実現不可能な問題であります。

60 北村徳太郎氏、洋書輸入協会の名誉会長に就任

60.1 北村徳太郎氏を、協会の名誉会長に推戴の気運起る

たまたま当協会員であり、又理事としてお骨折頂いている教文館の会長北村徳太郎氏は、現在衆議院議員として国会において日夜国務に精励されています。しかも、御承知のように、数回大臣の経験を持たれる自民党内の有力メンバーの一人であり、且つ人格高潔、真摯なクリスチャンとして、内外にその人格と実力を認められる第一人者であります。

昭和33(1958)年7月17日、著作権国内法改正運動に対し、絶大な支援をして頂いた教文館会長、衆議院議員、北村徳太郎氏を囲む会を協会理事一同で開催した。席上同氏に対し謝意を述べると共に、かねてから協会内部に起こっている同氏を名誉会長に推戴したいとの気運を同氏に伝え、考慮方を願った。

60.2 協会懇談会にてこの件を審議

理事会は、9月12日に懇談会を開催し、下記の提案書を配布して会員の審議を求めた。

本協会永年の懸案であり、国内的のみならず、国際的な道義上も緊急な問題であった洋書の海賊版根絶のため提案された「著作権法一部改正法案」審議に当って、北村氏は解散含みの会期末国会において、最後まで強力にその通過に尽力して下さいました。その結果、一時はやむなく見送りと予測された同法案が、ぎりぎりの解散前日に通過成立したことは、議員としてまた協会理事と

この文は戦後13年を経過している当時の客観情勢と、協会の立場が明らかにされているので、少し長くなるが

して、北村氏に負う所誠に多大であると言わねばなりません。

もし北村氏の御尽力がなかったらならば、同法は不成立に終わったと我々一同感謝する所であります。

洋書の輸入に伴う税関問題、輸入書籍の返品問題など、洋書の輸入販売という特殊性のある問題を、関係当局に理解して貰い、更に将来予想される政治的懸案事項の解決などに思いを致しますと、本協会の代表者の一人が国会に議席を持ち、協会の目的方針に沿った解決を図ることは、上述の例よりみても最も適切な方策であると考えます。

北村氏を、個人として会長に推し、名誉会長として御尽力をお願いする所似（ゆえん）であります。

本協会は理事長として、財界の有力者であり東京商工会議所副会頭たる司氏を戴いておりますので、幸にして会員諸賢の賛同と、同氏のまげでの御承諾を得られるならば、名誉会長に政界有力者たる北村氏を得て、輸入協会自体としても財界に政界に基盤を得て、内外にその地位を高め得るわけであります。

大方の御賢察と御賛同を衷心より希望致します。

附記 尚上述の趣旨よりして、協会として常時名誉会長を設ける必要はなく、今回たまたまその人を得て推戴したく提案するものでありますから、直ちに会則を変更する必要はないと思います。（以上）

60.3 北村徳太郎氏、協会名誉会長に就任

9月12日の懇談会における審議では、出席者全員の賛同を得たので、昭和33（1958）年9月27日付、JBIA No.46でこの件を次のように会員に知らせている。

記

北村徳太郎氏本会名誉会長に就任の件

9月13日付、JBIA No.43の報告に基づき、昨26日北村徳太郎氏を理事全員にて訪問し、本会名誉会長に御就任方を正式に懇請し、御快諾を得ました。

同氏は、10月3日SAS 12時羽田発にて、訪ソの御旅行に出発されますので、いずれ御帰国後適当な機会に全員と御顔合わせを致す様取り計らいたく存じておりますから、何卒左様御了承下さい。（以上）

なお、名誉会長に関する規約変更の件は、次の総会に提出するとしている。

60.4 協会懇談会に北村名誉会長出席

昭和34（1959）年1月16日の協会懇談会には、名誉会長 北村徳太郎氏や、理事長 司 忠氏、教文館専務 武藤富男氏などが一同に会し壮観であった。ここでは、昭和34年の年間の課題として、書籍及び定期刊行物としてのA・Aの枠拡大が取り上げられ、通産大臣へ請願のことが検討されている。

北村徳太郎氏の略歴は、人名辞典によれば次の通り。
記

実業家、政治家、明治19年5月9日京都市上京区に生る。同42年関西大学法律学科卒業。昭和6年佐世保商業銀行頭取、同18年親和銀行頭取、21年佐世保商工会議所会頭などを歴任。21年の衆議院選挙で、修正資本主義を掲げて進歩党から出馬して当選。22年片山内閣運輸大臣、23年芦田内閣大蔵大臣などをつとめた。進歩的な立場をとる保守政治家として知られ、日ソ貿易の拡大に力を入れ、30年には国會議員団団長として、38年には第2次訪ソ日本経済使節団団長として再度ソ連を訪問。33年日ソ東欧貿易会長、41年には日ソ経済合同委員会会議長となる。昭和43年11月15日没。

おしらせ

CCH Japan Ltd.の設立

米国のCommerce Clearing Houseはこのたび日本法人を設立した。

CCH Japan Limited

〒104 中央区京橋2-8-2 京橋MKビル6F

電話：03-563-4591

Fax：03-563-4593

カタログなどをそろえているほか出版物を展示し、在庫品をそろえている。東京洋書株式会社は従来通り日本総販売代理店の業務をおこなう。

同社の設立に伴い、東京洋書の代表取締役木原国夫氏が日本における代表者に就任された。

東京の坂と橋と文明開化 (7)

番町の坂と「滝廉太郎」碑 ——洋楽の伝来と発展——

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

番町界隈は坂が多い。「2月が来た。麴町上二番町より五味坂の方へ^{つづ}連^{みち}接^{みち}している道路にも草の芽をみるように成った。」と島崎藤村が『春』で描写した「五味坂」は、一番町の「袖摺坂」との交差点から切れ込むように下って内堀通りに抜ける坂であるが、この交差点に「滝廉太郎」のレリーフと「荒城の月」の碑が建っている。ここを訪ねた機会に明治期における洋楽の伝来とその成長の歴史を簡単に辿ってみることにした。

滝廉太郎がこの辺りに住んだのは明治33年から1年程であったが、この期間は彼の創作活動の中で最も充実した時で、「荒城の月」「箱根八里」などの名曲が生まれる。明治34年に彼は留学先ドイツに向けて出発したが、日ならずして結核に罹病し、その翌年僅か1年半にして帰国をよぎなくされ、療養も空しく明治36年に23年10カ月の生涯を閉じる。

さて、わが国に洋楽が伝わったのは、1549年(天文18)のザビエルの来日によるカトリック音楽の到来で、1605年(慶長10)長崎で出版された『サカラメント提要』にグレゴリオ聖歌19曲が収められて、日本最古の洋楽譜としてキリシタン音楽を語る唯一の直接資料になっている他、余り詳しい記録が残されていないという。ともあれ、信者の広がりに伴って浸透していくかにみえた西洋音楽も、キリシタンの弾圧、迫害によって途絶え、僅かに隠れキリシタンの中で「歌オラシヤ(オラシヨ)」のような形で伝承されてきた。

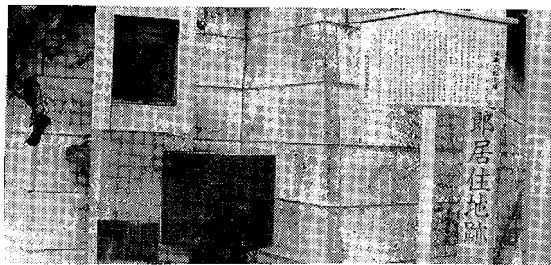
日本人が再び耳にした西洋音楽はペリー艦隊(1853年—嘉永6)軍楽隊であった。1856年(安政3年)には『西洋行軍楽鼓譜』なるものも刊行され、洋式軍隊の訓練に鼓笛楽が用いられるようになる。明治になるとフェントンなど雇い外人たちの指導により演奏力が向上していき、それに伴って軍楽隊は軍隊儀礼に止まらずその演奏活動が広がっていく。

明治の初期、文部省は音楽を教科に取り入れたが実際には授業の教材も知識もない状態であった。当時の教育界の傑物伊沢修二は文部省に進言して明治12年に「音楽取調掛」が発足し、アメリカの音楽教育家L.W.メーソンの

の招聘により音楽教育が本格化していく。伊沢は先ず小学校の唱歌教科書の編纂と音楽教員の養成に着手し、明治14年に『小学唱歌集<初篇>』が生まれる。この唱歌集には西洋の旋律をそのまま借用したものが多く「庭の千草」や「蝶々」「螢の光」など収録歌曲33の半数が外国の唱歌曲を用いたものであるという(堀内敬三『音楽明治百年史』)。唱歌曲は全3篇刊行されて音楽教科書として採用され、以後「文部省唱歌」が編纂される迄の25年間使用された。こうして、「音楽取調掛」を基盤にした伊沢とメーソンの活動によって日本人に西洋音楽が根付いていく。

一方、「鹿鳴館時代」に象徴される欧化の風潮の中で音楽も芸術性が求められるようになった。こういう中で、伊沢たちの運動によって明治29年に文部省直轄学校「東京音楽学校」が設立され、芸術的音楽はここを中心に展開していく。ディットリッヒ等の雇い外人の努力により音楽家の養成も格段に進み、幸田姉妹(露伴の妹達)や三浦環など洋楽揺籃期から活躍した天分豊かな芸術家が育ち、演奏会や歌劇に、また後進の育成に目覚ましく活躍する。こうして西洋音楽は芸術的レベルが高まると共に、一般にも浸透していき、やがて、滝廉太郎など日本人による芸術的音楽作品が生みだされるようになる。

休日の眠っているような番町を、坂を訪ねて逍遙するうち、気がつくと早や中秋の夕闇があたりを包んでいた。私はフト泉鏡花の短編『夜行巡査』の一節を思いうかべた。「麴町一番町英国公使館の土塀のあたりを柳の木立に隠見して、角燈あり、南をさして行く。其光は闇夜に怪獣^{まなこ}の眼の如し。」



「滝廉太郎」のレリーフと「荒城の月」碑

ドイツおよびヨーロッパにおける書籍市場とメディア諸構造

展覧会・見本市主催会社 (Ausstellungs- und Messe-GmbH)

名誉会長 Dr. ウルリッヒ・ヴェクスラー

東京・ドイツ書籍展示会での講演

東京ドイツ文化会館、1990年9月4日

1. ドイツの書籍市場

1. 1. 組合小史

ドイツ書籍市場の特殊性の一つとして、組織化が高度に進んでいることが古くから上げられています。ドイツ書籍出版協会 (Börsenverein des Deutschen Buchhandels) は1825年にライプチヒで創立されてから165周年を迎えます。ライプチヒはドイツ書籍業の中心へと発展を遂げ、ライプチヒ・メッセは拡大するヨーロッパの書籍業の最も重要な催しになりました。ナチス支配によってこの発展は終ります。

戦後多くの出版者は、地理的に大きく広がるライン・マイン地帯とよばれる地域に腰を降ろすことになるのですが、その中心には後のドイツ連邦共和国の発展過程で経済の中心の一つになっていくフランクフルトがありました。1948年、通貨改革の年、フランクフルトでドイツ書籍商および出版団体組合が結成されました。そのわずか一年後、フランクフルトのパウロ教会で第一回フランクフルト・メッセが開催されます。1955年からは西ドイツの書籍業者組織も伝統的なドイツ書籍商出版組合を自ら名乗ります。この組合がすべての商業レベル (出版会社、卸売、小売書店、出版セールスマン) をその傘下に結集している事実には、特記すべき重要な意義があり、ここでははっきり強調しておきたいと思います。これはヨーロッパにおいても、ヨーロッパ外でも書籍業としてはユニークな組織形態であります。外的には、全書籍業の経済的・文化的利害や要求を、一手に代表することができます。安定した図書・雑誌類の店舗価格、いわゆる「価格維持協定」は、当団体活動の最も顕著な現れであります。この「価格維持協定」という制度は、対中小企業政策上、また文化政策上、大きな意義を持っています。

1. 2. ドイツ書籍市場

ドイツ連邦共和国の書籍商業は、1990年7月1日まで、つまりドイツ民主共和国との経済通貨社会同盟の日まで、

次のような実績をあげておりました。

出版会社合計2,000社の年間総発行書籍タイトル数は、69,000点その中51,000は新刊書であり、前年比で4.5%増でありました。ただし総数の18%にあたる12,400は文庫本です。興味深いのは、全タイトル数の70%は実用書・専門書であり、21%が文芸書、7%が児童・青少年向けでありました。タイトル数に関しては、1951年以来の最高であったのみならず、同時に同年以来、約150万点の図書が刊行されたことになります。入手可能なドイツ連邦共和国の出版物は、ざっと52万種ありますが、その販売は82社の卸売業者のロジスティックやインフラストラクチャーおよび出版物専門配送業者に支えられた約3,600の一般書店によります。

ドイツ連邦共和国の書籍業が、非常に効率的な販売組織として有名になった要因の一つに、卸売り業者および出版配送業者の役割がありますが、これについて二、三の例を挙げてみましょう。業界の大手2社、コッホ・ネッフ&エッティンガー (Koch Neff & Oetinger=KNO) とその子会社であるグロッソハウス・ヴェグナー (Grossohaus Wegner) およびリブリ (LIBRI) を代表例としてドイツ出版業のこの部門の実力を次のように描写することができます。供給可能なタイトル数52万のうち15万を両企業は24時間以内に、ドイツ連邦共和国のどの書店にも配達できます。配送は毎日西ドイツ国内1,000の市町村をカバーする150車両によってなされます。3,500の書店に注文用ターミナルが装備されています。1989年のドイツ書籍業全販売チャンネルを合わせた (一般書店、デパート、駅売店、ブッククラブ、メールオーダー、出版会社の直販) 総売上高は110億マルクでした。これは前年比で約5%の上昇です。その際、ドイツでゾルティメント (=品揃え) と呼ばれている従来の意味の書店、つまり常設店舗による書籍販売が書籍業全体の総売上の63%を占めています。

1. 3. 構造転換

「構造転換」という概念の下に議論されながら、ドイツ連邦共和国においても、書籍業全分野にわたって、ここ

最近では集中化のプロセスが始まっています。新しいマーケティングコンセプト（デパート、専門マーケット、支店化）が前面に押し出され、競争を激化しており、傾向的には書籍・雑誌販売のシェアを徐々に伸ばしつつあります。このプロセスで特徴的なことは、最近の調査で大型書店100で約20億の売上をあげており、全国の一般書店の総売上のおよそ30%に達しているということです。大量注文に有利な割引、書籍「百貨店」の豊富な商品レンジ、立地条件のメリットやマーケティング・組織上の優越等による生存競争は、今後ますます激しくなることでしょう。したがって書籍商業活動における集中化が将来も進行することが予測されます。

トップ50社で1989年度に60億マルク近くのメディア販売を売り上げ、トップ100社で約70億マルクのメディア売上に達しています。ただし、もちろん国際的にオペレーションしている大企業ほど国外の割合が高く、売上の三分の二近くまで占めることがあります。それにしてもこの統計は、出版部門でも集中化があることを示しています。このことは、逆に全書籍出版社の三分の二が売上100万マルク以下であるということを考慮すれば明白です。

1. 4. ドイツ語圏内の書籍業

その意味を正しく見定めるために、約25億マルクという数字を覚えておくのと良いでしょう。この数字は西ドイツの書籍輸出売上げ高、つまり全世界への輸出を表わします。これは110億マルクの総売上の約22%に相当します。ドイツ語圏内における書籍通商の特徴として、今まではオーストリア、スイス、ドイツ民主共和国およびドイツ連邦共和国の4カ国を包括していたことが上げられます。そのいくつかの概括データを挙げましょう。

オーストリアは1988年に合計5億2,100万マルクの書籍（2億8,440万）および新聞・雑誌類（2億3,670万）を輸入しました。同時にオーストリアの出版業者は合計、およそ1億6,400万マルクの書籍（8,460万）および雑誌類（7,940万）を西ドイツへ輸出しています。

スイスの場合も似ています。ドイツ連邦の出版業者は1988年、合わせて約5億3,500万マルクの書籍（2億9,890万）および雑誌類（2億3,670万）をスイスへ輸出しています。同時期にドイツ連邦のバイヤーは合計1億1,600万マルクの書籍（7,570万）および新聞・雑誌類（4,000万）をスイスから輸入しています。

上記の数字で強調したいことは、ドイツ連邦の書籍・雑誌類の輸出（現在の輸出総額約25億マルク）の50%近

くがこの2カ国向けだということです。ヨーロッパの他の大きな書籍市場への輸出のシェアは、それに比べてずっと小規模です。例えばフランス向けが約10%（ざっと2億5,000万）、イギリスへは6.5%（約1億5,500万）、イタリアが約4.5%（1億1,500万）です。

オーストリア出版業が1988年に出版したタイトル数が1万、それにスイスのドイツ語圏内で発行された書籍のそれは、1万1,000および東独の7,000を合わせると、約9万8,000タイトルがドイツ語圏内での総発行数ということになります。

かつての書籍市場・東独は、ドイツ連邦の書籍業にとって輸出入市場でしたが、今は統一ドイツ書籍市場の一部になりました。ドイツ民主共和国の方がオーストリアやスイスより書籍の取引量がずっと少なかったということを確認しておくことは、無意味ではないでしょう。

1988年には、ドイツ民主共和国は3,070万マルクの書籍・雑誌類を買っていますが、これに対してドイツ連邦共和国は、2,360万マルクの書籍・雑誌類を東独から購入しています。

東独の78の出版社は年間約6,600点の新刊を合計1,500万冊生産し、東独内で1,200の書店が販売しました。

中央ヨーロッパのドイツ語圏内書籍市場についてまとめてみますと、密接に絡み合った市場であり、14億マルクに近い取引額があるヨーロッパ諸国間の全書籍貿易の中でも、最も太い動脈を成しているということになります。

II. ドイツのメディア市場の競争マトリックス

ドイツ連邦共和国のメディア利用に関するある調査では、ヨーロッパメディア市場の他の国についても、若干の違いを除いて、当てはまる結果がでています。この調査によると、西ドイツ市民は平均、毎日6時間をメディア消費に使っているそうです。その内、半数近く（44%ないし160分）はラジオが占め、3分の1（34%ないし120分）はテレビです。つまりメディア利用に費やされた時間の80%は電波のマスメディアが占め、わずか20%が残りのメディアであり、内9%は日刊紙です。1日の全メディア利用時間のたったの7%足らず（あるいは25分）が本や雑誌の読書に使われます。この割合が2000年には、わずかに13分、つまり3.5%まで減退するであろう、と見る予測も出ているくらいです。

この関連で、ドイツのメディア市場における競争マト

リックスのいくつかの特に興味深い側面と特徴について、言及して下さい。この10年間にメディア利用の時間的拡張が起こり、毎日のメディア利用時間が107分多くなったことを、私たちは知っています。ただしこの107分は読書に当てられず、特にラジオ・テレビの視聴に利用され、ごく一部が雑誌を読む時間に当てられました。

TV

ドイツ連邦共和国のテレビ宣伝総額は昨年で23億マルク、製作費を省く宣伝広告ネット支出総額の11%のシェアに達しています。つまり他のメディアは全宣伝市場約210億マルクの89%を占めていたことになります。現在では民間のテレビ・ラジオ番組が、スポンサーの取り扱いで有力な競争相手になっています。興味深いことに、昨年の14.2%の宣伝成長は、大部分が民間放送の収益増になっているということです。

ラジオ

注目すべきは、ラジオがメディア利用の中で果している役割が大きくなる一方であり、したがって宣伝価値が高まっているということです。ラジオ宣伝の総額は1988年に10億6,000万マルクに達し、初めて10億の大台に乗りました。

このため、各（新聞）出版社は次のような行動に出ています。

- * 90周波数の中、42は新聞・雑誌・フリーペーパー各社が放送局ないし放送時間の50%以上を保有している
- * 24放送局の4分の1から半分までのシェアをプレス関連会社が保有している

- * 7番組でも、出版社が25%以下の影響を持っている

したがってドイツ連邦共和国におけるラジオ市場は、出版社の市場になっています。これは、広告料の受取額では新聞がいまだにトップにありながらも（34%=70億マルク）、ラジオのメディア利用における役割、つまりは宣伝効果が高くなっているという事実、出版業者が応えた結果でありました。

新聞・雑誌

人口千人当たり526部の日本は最大の新聞普及率を持つ国です。第2位はドイツ連邦共和国で、人口千人に対して毎日430部出ています。2,590万部が1988年には販売されています。同年、ドイツ連邦共和国には223種の日刊

新聞、日曜新聞および週刊新聞が刊行されました。いわゆる大衆雑誌市場では、Bauer、Springer、BurdaおよびGruner+Jahrの各出版グループが最大シェアを保有しています。1988年の年間発行総数約1億5,000万冊の中、このマーケットリーダー4社が約4,800万冊、つまり46%近く占めています。これは高い集中度と、ほとんど寡頭政治的とも言える構造を表わしています。

最も強い成長を示しているマーケットセグメントの一つに専門雑誌市場があります。年間売上総額は16億マルクに達し、雑誌の種類も3,000種が発行されており（前年比成長率4.7%）、最も成功している分野であります。

最後に触れておきたいのは、レコード、音楽用カセット、コンパクトディスクを総称した、いわゆるオーディオ市場で、ドイツ連邦共和国における1988年の売上総額は約26億マルクでした。ここで、エレクトロニクスのメディアがプリント・メディアを決して押し退けたり、決定的に弱体化することができなかったことを確認しておきたいと思います。それでも明らかな、メディア間関係上の構造転位はあるでしょう。つまり

- * 読書時間は他の余暇利用やテレビにより減少する
- * ラジオが日刊新聞の競争相手として増大する
- * ローカル紙、地方紙の分野では顕著な変化が起こるであろう
- * 民間のテレビ・ラジオ番組提供者が、伝統的なプリントメディアや公共放送局の宣伝・広告収入を奪うであろう（紙面の都合上、削除訂正をほどこしました。）

（つづく）

おしらせ

明年2月に開催が予定されていた「第2回東京国際ブックフェア'91」は開催が延期されました。主催者カーナーズ社では、更に十分な準備期間を設けて、より本格的なブックフェアにしたいとのことです。

総代理店ご案内

ユサコ㈱ Tel: (03) 502-6471
American Institute of Ultrasound in Medicine (USA)
Journal of Ultrasound in Medicine
American Society for Parenteral and Enteral Nutrition (USA)
Journal of Parenteral & Enteral Nutrition
Nutrition in Clinical Practice



胸部, 心血管外科

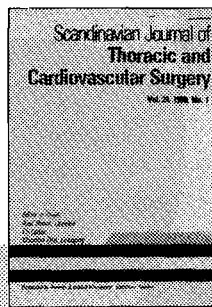
Scandinavian Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery

Chief Editor

Axel Henze, M.D.
Associate Professor of Thoracic
and Cardiovascular Surgery
Akademiska Sjukhuset, Sweden

Co-Editor

Christian Olin, M.D.
Associate Professor of Thoracic
and Cardiovascular Surgery
University Hospital, Sweden



- 発行国: スウェーデン
- 創刊: 1967年
- 発行回数: 年3冊
- 出版社:
Almqvist & Wiksell International
- 年間購読料: ¥22,200

ISSN 0036-5580
商品コード 188956

本誌は胸部, 心臓, 中枢血管の外科に関する研究論文, 症例報告を掲載する国際誌です。
学位論文や臨床レビュー, 書評も掲載されます。使用言語は英語です。各号には心臓移植
を含む約15件のレポートが掲載されます。

Indications for and risks in reoperation for coronary artery disease/Athero-
sclerosis in internal mammary and related arteries/Laser for harvesting
掲載論文例 of the internal mammary artery/ Expanded use of internal mammary artery
graft for myocardial revascularization/Surgery after heart transplantation/
Results of multiple valve repair, A clinical study of 81 patients

- 表示価格には消費税が含まれておりませんので, 別途申し受けます。
- 原価改定, 為替相場の変動等の理由により, 価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文, ご照会是最寄りの書店, 大学生協または弊社本・支店販売部(課)外国雑誌担当までお申し付けください。



日本総代理店

本社・日本橋店: (〒103) 東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)272-7211 振替東京7-5番

支店・営業所—東京(お茶の水・丸の内・内幸町・浜松町・アークヒルズ・渋谷・錦糸町・北千住・取手・土浦・浜松・船橋)・
千葉・八王子・松本・大宮・所沢・新潟/札幌・仙台・弘前・盛岡・郡山・筑波・水戸・横浜・名古屋・静岡・岐阜・
三重・金沢・富山・福井・京都・滋賀・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・山口・福岡・長崎・鹿児島・沖縄
/ニューヨーク・シカゴ・ロンドン

1990年10月 通巻第282号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫
☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎271-6901 FAX.271-6920
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329